

■拠点施設 林業青年の家、森林公園会館ができ、野鳥の森が設置された



彫刻の丘 1985 年（昭和 60）



里桜の丘 1985 年（昭和 60）



林業青年の家
1972 年（昭和 47）頃
1991 年（平成 3）開
所まで 25 年間使用さ
れた。



林業青年の家
1985 年（昭和 60）頃
撮影
赤い屋根になっている。



森林公園会館 室内 1985 年（昭和 60）
鳥獣の剥製がガラスケースに展示されている。



森林公園会館 玄関周り 1985 年（昭和 60）
会館近く、現在の中央トイレ付近にバス停があった。



森林公園会館 1985 年（昭和 60）頃
鉄骨二階建。2 階テラスは展望台となっていた。
ただ、この写真のように、開所から 20 年後には
アカマツが育ち眺望は失われてしまったようだ。

1970年代、大気汚染等による公害や
開発による自然破壊が社会問題となるな
か、園内北西うぐいす谷を含む 40ha が、
県下初の「野鳥の森」となりました。
1971 年（昭和 46）5 月のことです。こ
れにより森林公園は野鳥の宝庫として広
く知られることになりました。その2年前、
1969 年（昭和 44）1 月には、森林公園
は天竜奥三河国定公園第二種特別地域
に指定されています。自然保護の気運の
高まりも追い風に、森林公園の役割が目
に見える形となっていました。

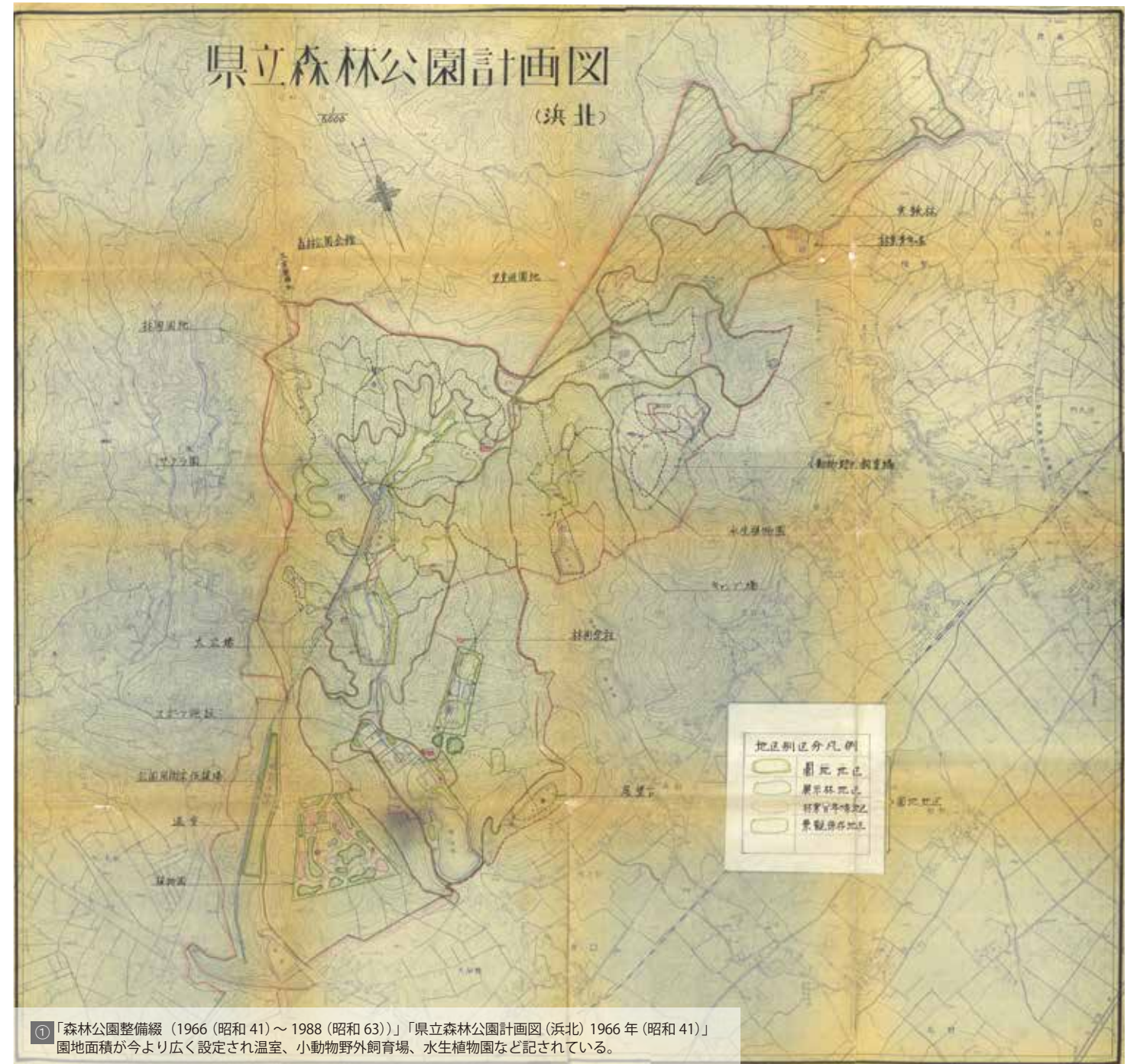


静岡県立森林公園 今昔 1 最初の 10 年

静岡県立森林公園は、2025 年度に公園開設 60 周年を迎えます。1965 年（昭和 40）の事業開始年度を開設の年としています。森林公園は今日まで、随時整備されてきましたが、公園の骨格をなす事業は、開設

当初から10年かけて行われた第1期、第2期整備事業、また約 20 年後に行われた「公園リフレッシュ再整備事業」により、おもだった施設や園地が形作られました。

2025年度
静岡県立森林公園
開設60周年



①「森林公園整備綴（1966（昭和 41）～1988（昭和 63）」）「県立森林公園計画図（浜北）1966 年（昭和 41）」
園地面積が今より広く設定され温室、小動物野外飼育場、水生植物園など記されている。

公園会館には鳥獣剥製などが展示され、アイスやジュースが販売されていました。展示剥製の多くは、地域の方の寄贈によるものでした。

公園会館は、32年の間、森林公園を訪れる方の拠点施設として活用され、2004年（平成 16）に閉所しました。

【資料提供】 ⑥⑦⑨⑪⑫⑬：静岡県環境ふれあい課 ①②③④：静岡県西部農林事務所
【画像】 ⑤⑧⑩：静岡県立森林公園」1972 年（昭和 47）6 月発行 パンフレットより

ビジターセンター バードピア 浜北

自然情報の発信、自然体験プログラムなどを通じて、静岡県立森林公園の自然の魅力を発信しています。
■入館料：無料
■開館時間：9:00～16:30
■休館日：水曜（祝日の場合は翌日）と年末年始（12/29～1/3）

木工体験館

気軽に木工を楽しむことができます。工具はそろっているので、手ぶらでお立ち寄りください。
■木工：金・土・日
■開館時間：9:00～16:30 初回利用時に「初心者利用講習」受講が必要です。
■休館日：月・火・水と年末年始（12/29～1/3）
■問合せ：☎ 053-583-1559

県下初の自然公園として、多くの期待を背負って誕生！

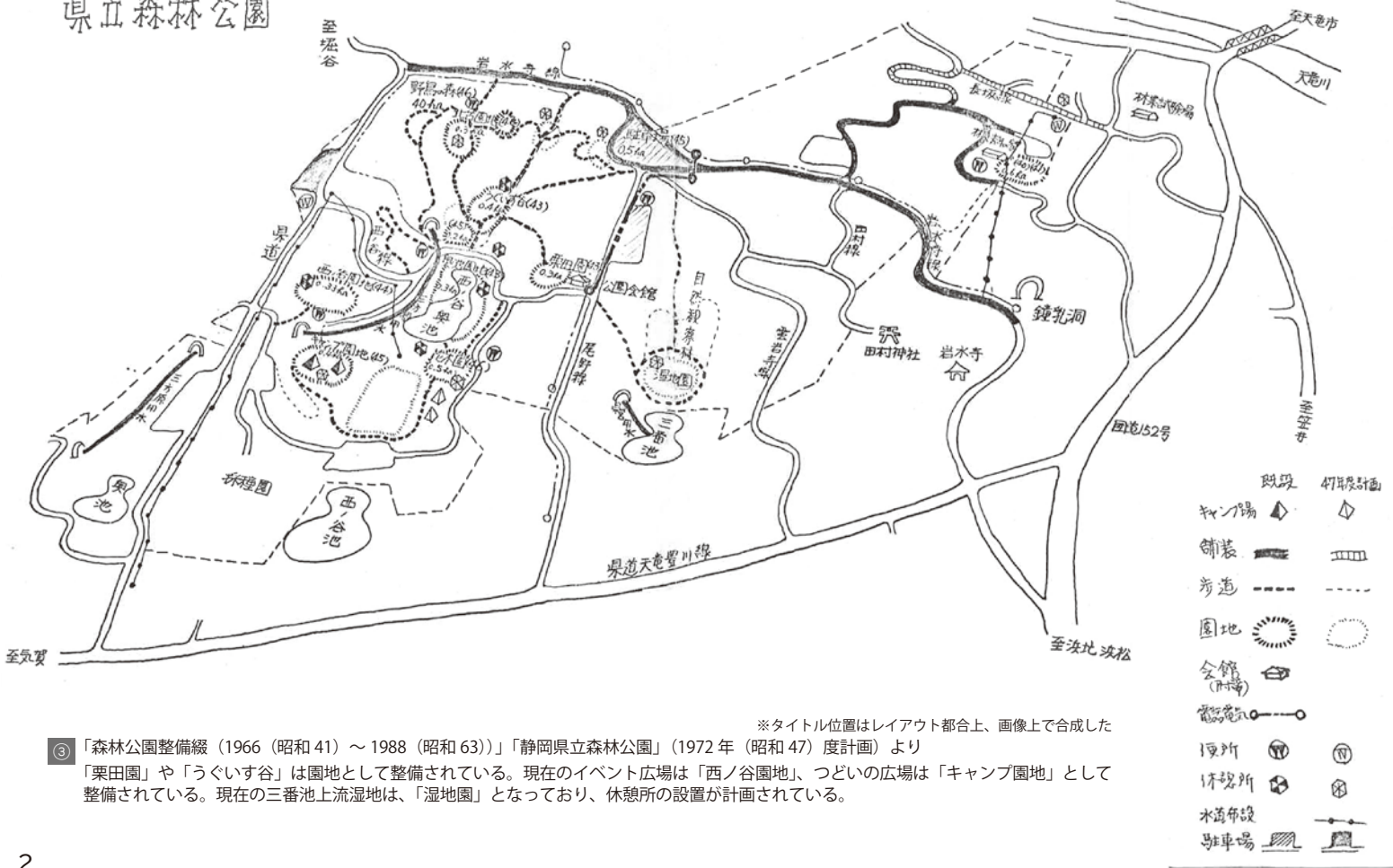
けんりっ しんりんこおえん



※タイトル位置はレイアウト都合上、画像上で合成した

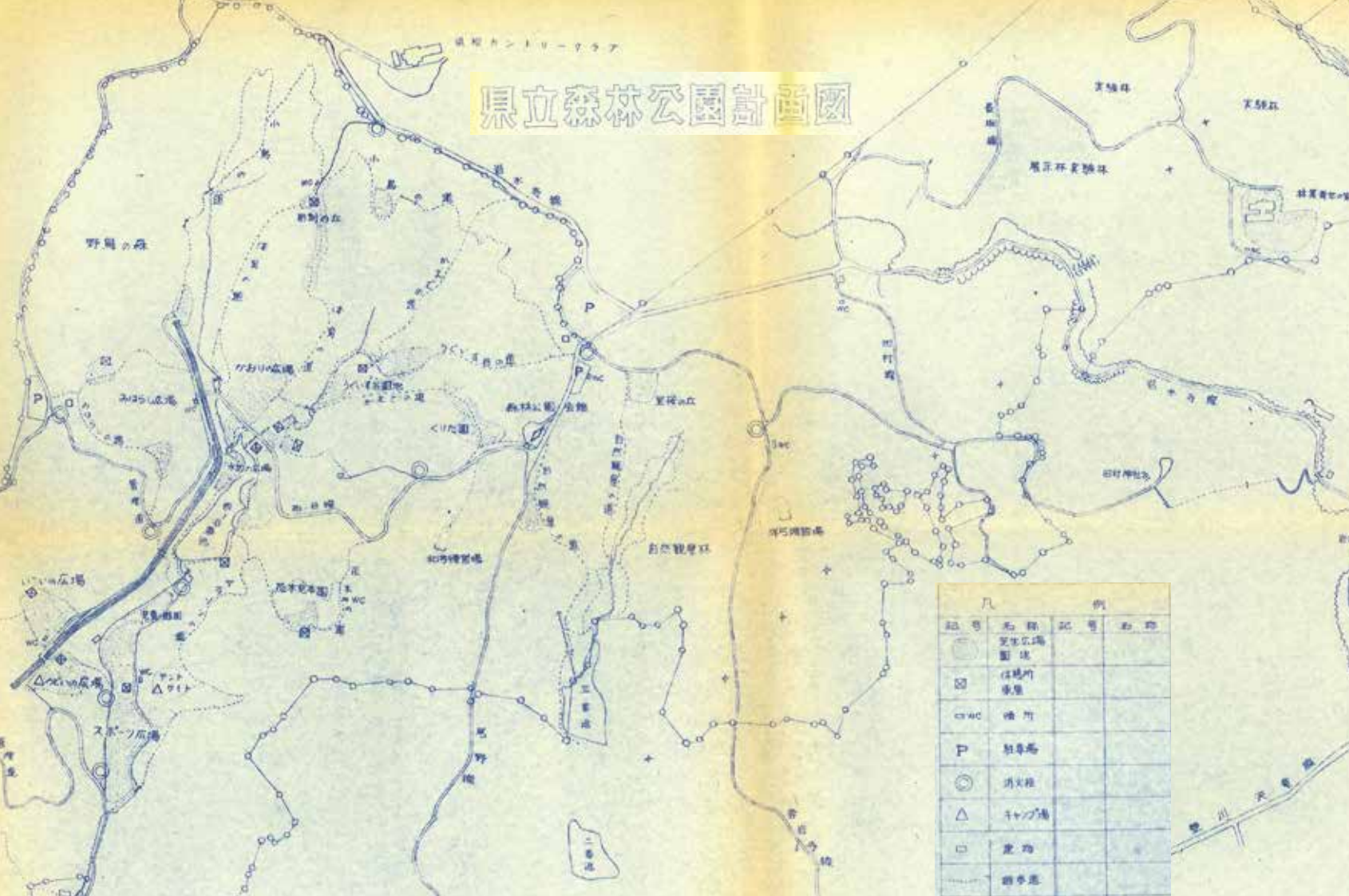
② 「森林公園整備綴（1966（昭和41）～1988（昭和63）」「静岡県立森林公園第2期整備建設計画」（1969年（昭和44））より
うぐいす谷の南西付近を「奥庭」、小鳥の丘付近を「北ノ台園地」、スポーツ広場を「自由広場」と記されるなど園地名での記載でなく、また1972年（昭和47）
に開所する公園会館とは違う場所に「公園事務所」が描かれている。周囲のゴルフ場（浜松カントリークラブ）や遠州鉄道、天竜浜名湖鉄道なども描かれる。

県立森林公園



※タイトル位置はレイアウト都合上、画像上で合成した

③ 「森林公園整備綴（1966（昭和41）～1988（昭和63）」「静岡県立森林公園」（1972年（昭和47）度計画）より
「栗田園」や「うぐいす谷」は園地として整備されている。現在のイベント広場は「西ノ谷園地」、つどいの広場は「キャンプ園地」として
整備されている。現在の三番池上流湿地は、「湿地園」となっており、休憩所の設置が計画されている。



県立森林公園計画図

④ 「県立森林公園計画図」1985年（昭和60）頃までに作成された図
第2期までに整備された箇所が確認できる。水辺の広場には3つの四阿がある。現在の小鳥の丘は「彫刻の丘」、現在のいこいの道は「マラソンの道」となっている。
現在のカエデの森線沿いに「洋弓練習場」、同つつじの丘の南側に「和弓練習場」と記載がある。図3で計画があがっていた自然観察林の四阿は実現しなかったようだ。

※原図の部分のみ示す、またタイトルと凡例位置はレイアウト都合上、画像上で合成した

当地は1925年（大正14）9月までは御料林でした。
宮内省帝室林野局から県に払い下げを受け、それ以降、県営林（模範林）となりました。

国で自然公園法が制定されたのは、1957年（昭和32）10月のこと。「優れた自然の風景地を保護するとともに、その利用の増進を図ることにより、国民の保健、休養及び教化に資するとともに、生物の多様性の確保に寄与することを目的とする（第一章総則 第一条）」とする法律です。この制定からさかのぼること4ヶ月、同年6月、佐久間ダムおよび秋葉ダム周辺が「天竜県立公園」に指定されます。

その4年後、1961年（昭和36）4月「浜名湖畔県立青年の家植樹祭」にて知事により県下初となる「森林公園設置構想」が表明され、計画が始動します。
翌年には田村線などの公園道路開工工事が始まります。この頃、岩水寺からこれらの林道を通して林業試験場方面へ至る「大岩山林道コース」、田村將軍山に至るコースなどハイキングコースが設定され浜北市（当時）広報などでたびたび紹介されています。
1964年（昭和39）8月、当地とその周辺（赤佐地区、

鹿玉地区の一部）が「天竜県立自然公園」に編入されます。このとき「静岡県立森林公園」と命名されました。そして同年暮れには「森林公園整備計画」が策定されます。ちなみにサンコウチョウが県の鳥に指定されたのもこの年です。

公園を形づくる最初の整備事業が「第1期整備事業（昭和40～）」と「第2期整備事業（昭和45～50）」です。第1期では、見晴らしの良い高台に「林業青年の家（1966年（昭和41）開所）」が建設され、また車道の改良・新設、メインとなる園地、西ノ谷奥池やうぐいす谷園地が造成されました。第2期で公園のシンボルとなる「公園会館（1972年（昭和47）開所）」が建設されました。公園会館オープン時には、関係者約200名が招かれ、記念行事として親子写生大会が催されるなど盛大にお披露目されたようです。

図②～④は、「第2期整備事業」とそれ以降の時期の計画図です。図①を含め見比べると公園会館の位置が図面で変わっていたり、実現しなかったと思われる施設名があったり、多くの検討が重ねられ、現在の姿となっているということが伝わってきます。